

異文化講演会報告

旅する書籍 古本屋がつなぐ東アジア

第42回講演会

2024年11月1日(金)に、京都大学人文科学研究所非常勤研究員の瞿艶丹先生をお迎えして、第42回異文化交流研究施設講演会を行いました。瞿先生は中国近代史・書物文化史をご専門として精力的に研究される一方、小説家としても幅広く活動されています。

今回の講演で瞿先生が話されたのは、古本および古本屋にまつわる物語です。古本が面白いのは、本の中身だけではなく、古本は売買され、新しい所有者のもとに移るごとに「旅」をします。時には山を越え、海を渡り、異文化をつなぐ役割を果たします。

では、古本がどんな「旅」をしてきたか、どうやったら分かるのでしょうか。古本には、過去の所有者の蔵書印(自分が持っている本に押す印章)や書き込み、古本屋の値札などの情報がつまっており、その本が「旅」していた経路を教えてください。さらに瞿先生によると、「古書販売目録」もよい資料になるとのことです。「古書販売目録」には古書の値段などが記載されており、古書の流通経路を解明するための手がかりがあるのです。このほか、古本屋に視点を据えた研究方法もあります。瞿先生は、京都で三百年ほど続く古本屋、佐々木竹苞書楼を例にとって説明されました。『玉篇』という本は、6世紀に中国の梁の時代に成立した字典ですが、中国では早くから失われてしまっていました。ただ、日本では古い写本が残ってしまっていて、その一部が佐々木竹苞書楼にありました。二十世紀になって、中国の学者がその複製を中国人に売るということが起こっていきます。瞿先生は次に『韋蘇州集』という本を事例に、それが朝鮮半島で出版されてから中国へ、そして日本へとわたった「旅」について蔵書印や識語(本文の前後にその本の来歴を記す文章)をもとに、具体的に論証されました。最後に、瞿先生は最近閉店してしまった古本屋もある一方、ネット販売を主力に行

う新しい古本屋も次々と誕生しているとして、未来の古本屋への期待を示されて講演を終えられました。

今回の講演会には歴史や文学を研究している山口大学の学生のほか、留学生や学外の方も多く参加しており、瞿先生の熱のこもったお話に聞き入っていました。質疑応答も活発で、実りの多い講演会となりました。

(報告者: 石田俊)



瞿艶丹先生

発行

山口大学人文学部異文化交流研究施設

753-8540 山口市吉田 1677-1 TEL 083-933-5200(代) FAX 083-933-5273

<http://www.hmt.yamaguchi-u.ac.jp>

2025年8月1日